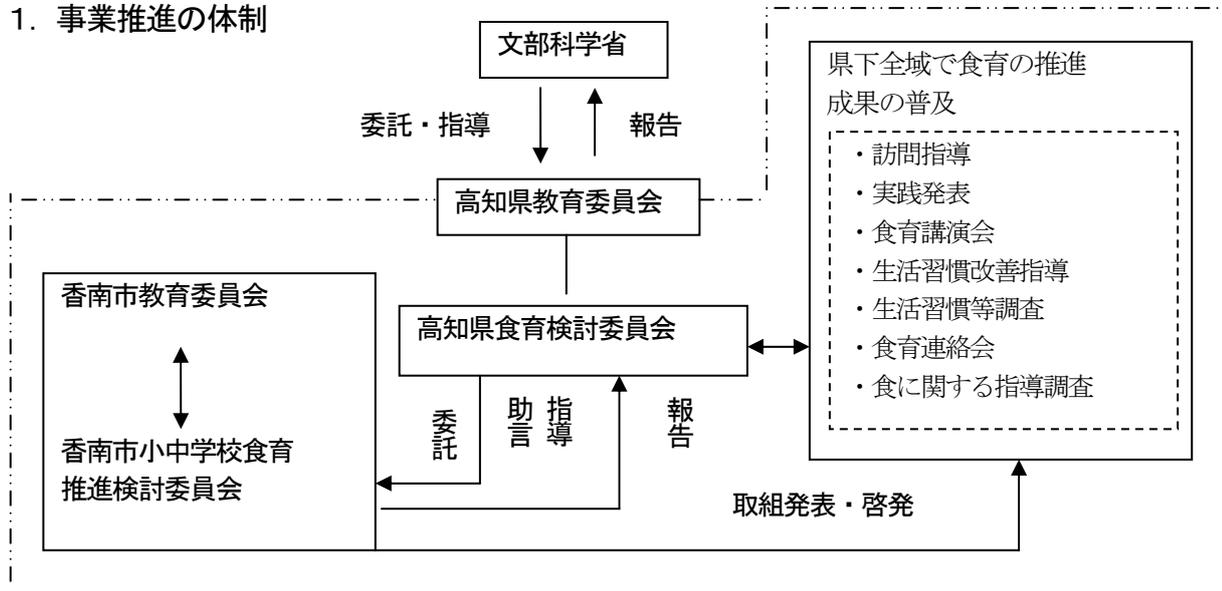


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	高知県
推進地域名	香南市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 食育検討委員会の開催と推進地域への指導助言

学校における食に関する指導の効果的な取組を県下全域に普及啓発

○県食育検討委員会の開催（年2回）

第1回：平成22年11月1日（月）

（内容） ・香南市（推進地域）の取組の中間報告
・子どもの食生活を中心とした健康課題と食育の推進について

第2回：平成23年1月31日（月）

（内容） ・香南市（推進地域）事業報告
・食育事業の成果と課題について

（指導助言） 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課
食育調査官 森泉 哲也 氏



○推進地域の検討委員会や成果発表会における指導・助言及び事業内容の確認

香南市検討委員会

第1回：平成22年6月24日（木）

（内容） ・食育推進事業の説明、香南市の課題に応じた食育の推進

第2回：平成22年11月5日（金）

（内容） ・事業中間報告に基づく進捗状況、家庭やPTA活動への啓発

第3回：平成23年2月3日（木）

（内容） ・事業報告及び成果物の効果的な活用、事業終了後の食育の推進

香南市事業報告会

平成23年2月12日(土)

(内容) ・事業報告、取組紹介、講演

○県主催の研修会等で事業の成果を普及

食育・学校給食連絡協議会 平成22年6月11日(金) 92名参加

(内容) 平成21年度食育委託事業の実践報告

【東洋町】 校内での食育推進の指導体制の整備、
地域の協力を得た体験学習の実践

【中土佐町】 町全体で食育を推進するための体制の整備

【梶原町】 栄養教諭を中心として行う保幼小中連携の食育

学校給食衛生管理・食育研修会 平成22年7月27日(火) 665名参加

(内容) 食育事業関係者の実践発表

【高知市立養護学校】 地元の食材を学校給食に活用した食育の実践

○食育講演会の開催

平成23年1月31日(月) 高知城ホール 111名参加

(講演内容) 「学校全体で食育を推進するための教育活動のすすめ方」

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課

食育調査官 森泉 哲也 氏

○食育実践事例集の活用を普及啓発

新規採用栄養教諭研修、新規採用教員研修、10年次教員研修

平成22年度高岡地区学校給食研修会 平成22年11月26日(金)

○全国連絡協議会出席

平成22年12月6日(月) 食育関係事業全国連絡協議会



テーマ2

児童生徒の生活習慣改善指導

○県内小学校5年生を対象にした生活ふりかえり票等による生活習慣改善指導を実施

9月より随時実施

子ども自身が生活習慣の改善に関する目標を立て、指導者が改善に向けての努力を促す指導



生活習慣を
チェック



自己目標の作成



学校と家庭が連携し、クラスみんなで目標達成に取り組む

○児童生徒の生活スタイルに関する調査の実施(7月実施)

平成14年度より児童生徒の食生活を中心とした生活習慣や体調、運動習慣に関する調査、検証の実施

対象：小学5年生1,027人

中学2年生1,029人

高校2年生1,047人 計 3,103人

○児童生徒の生活スタイルに関する調査結果(平成22年度)をホームページに掲載

テーマ3

食に関する指導の実践と実施状況調査の把握及び検証

○食育連絡会を開催（栄養教諭対象）

平成22年12月21日（火）25名出席

- （内容）
- ・講話「給食の時間における食に関する指導の重要性」
 - ・グループ協議
「食に関する指導を効果的に行うための栄養教諭の役割」
ー全体計画と年間指導計画の作成及び活用ー
 - ・報告「食の安全に関する実技講習会」

平成23年1月31日（月）26名出席

- （内容）
- ・食育講演会
 - ・報告 食に関する指導の実施状況調査結果
地場産物活用割合を高めるための意識調査結果



○食に関する指導実践事例集の活用による食育の実践

各学校において食に関する指導実践事例集を活用し、全体計画及び年間指導計画の作成、食に関する指導を実施

○香南市（推進地域）における食育の実践

香南市全体における食育の取組

- ・学校の教育活動における食に関する指導の充実のための取組
- ・就学前からの食習慣改善に向けた家庭への効果的な普及啓発のための取組
- ・地域と連携した食文化や地場産物への理解、食に関する意識の向上のための取組 等

○栄養教諭による食に関する指導の実施状況の把握（3月末調査実施）

栄養教諭の校務分掌、教科等学習の時間や給食の時間等の取組の状況及び成果や課題の把握

○学校給食栄養報告の把握（3月末調査実施）

栄養摂取状況や食品摂取状況、献立内容の把握

○食に関する指導の実施状況調査（1月調査実施）

対象：県内全公立小中学校及び特別支援学校

テーマ1～3に共通する具体的計画

平成21年度の課題は、食に関する指導を効果的に計画的に行うための全体計画の作成を進め、さらに年間指導計画の作成の重要性について啓発・普及を行うことであった。

平成22年度県が主催する食育・学校給食連絡協議会では、文部科学省や県の今年度の方針、全体計画作成の重要性について協議し、また、食育講演会では、文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也氏により、食育学校給食担当者それぞれにおける食育推進の役割や、全体計画及び年間指導計画の効果的な作成方法、食育のすすめ方についての研修を行った。また、栄養教諭対象の食育連絡会では、栄養教諭が中核となって、学校や受配校等の食に関する指導の全体計画や年間指導計画作成を進めるための研修や協議を行った。

平成23年1月に実施した「食に関する指導の実施状況調査」では、食に関する指導の全体計画の作成率は、小学校72.9%、中学校56.5%であり、作成率は年々増加しているが、年間指導計画の作成率は、小学校59.1%、中学校37.4%となっており、全体計画の作成率より低くなっている。また、校内で食育を推進するための組織の設置は、小学校32.4%、中学校19.1%であり、昨年度より設置率が微増している。指導の場面においては、中学校で、各教科（家庭科、保健体育科、社会科、生活科等）、での指導、道徳の時間での指導、給食の時間での指導、昼休みや放課後、教育相談日等での個別相談指導の実施率が昨年度より微増した。小学校では、道徳の時間での指導、昼休みや放課後、教育相談日等での個別相談指導の実施率が昨年度より微増した。

数字で変化のあった事項について

○食に関する指導の実施状況調査結果より抜粋（平成23年1月実施）

	小学校 (%)			中学校 (%)		
	H20年度	H21年度	H22年度	H20年度	H21年度	H22年度
食に関する指導の実施	98.0	100.0	99.6	98.3	94.9	95.7
食に関する指導の全体計画の作成	38.6	66.1	72.9	25.6	42.7	56.5
校内で食育を推進するための組織の設置		29.6	32.4		11.1	19.1
各教科（家庭科、保健体育科、社会科、生活科等）での指導	80.7	88.3	84.4	91.5	82.9	92.2
道徳の時間での指導	7.6	8.3	11.6	4.3	0.9	4.3
給食の時間での指導	65.1	81.7	80.9	42.7	41.0	48.7
昼休みや放課後、教育相談日等での個別相談	6.8	14.7	15.6	7.7	12.0	14.8
食に関する指導の実施者 栄養教諭又は学校栄養職員	39.8	53.5	52.4	22.2	26.5	32.2
食に関する指導の実施者 学級担任	83.5	88.7	88.0	32.5	43.5	42.6
食に関する指導の実践事例集の活用	25.7	37.4	38.7	10.3	20.5	26.1
生活ふりかえり票の活用	52.2	53.9	48.9			

○児童生徒の生活スタイルに関する調査結果より抜粋（平成22年7月実施）

	H18年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	目標値 (H23年度)
朝食を必ず食べる児童生徒の割合				
小学生	87.0	88.6	90.5	95%以上
中学生	77.2	80.0	80.7	90%以上
高校生	74.0	75.7	75.2	85%以上

朝食を必ず食べる児童生徒は平成18年度より小学生3.5ポイント、中学生3.5ポイント、高校生1.2ポイント増加している。また、平成22年度調査では、小学生の割合が初めて90%を超えた。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○県主催の研修会への参加者が昨年度より増えており、食育推進への関心の高まりが感じられた。

食育・学校給食連絡協議会 H21年度 83名→H22年度 92名

学校給食衛生管理・食育研修会 H21年度617名→H22年度665名

○本県の課題解決に向け、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 森泉食育調査官を講師として招聘し、111名の参加者により食育講演会を実施することができた。

講演内容では、参加者それぞれの職種における食育推進の役割を明確にし、新学習指導要領に基づいた食に関する指導の全体計画や年間指導計画の効果的な作成、その活用等について具体的に学ぶことができた。また、参加者のアンケートから、平成23年度の食育推進の足がかりにしようとする感想が多く見られた。

(参加者のアンケート) 今後取り組んでいきたいこと

- ・市町村(学校組合)教育委員会:食育を推進するための栄養教諭や学校栄養職員への支援、管理職研修の機会等
- ・校長等管理職:食育の重要性について共通認識を図ること、全教職員で全体計画を作成等
- ・栄養教諭・学校栄養職員:給食の時間の指導の充実、担任との連携、教科等学習の時間のねらいを取り入れた計画の作成等
- ・教諭・養護教諭:ねらいを明確にした食育の実践、栄養教諭未配置校の養護教諭の取組を進めること
- ・食育・学校給食担当者等:講演会の内容を教職員対象の研修会に活かすこと

○食育連絡会では、栄養教諭が中核となって学校や地域の食育を推進していくという意識の向上を図る協議や研修を行うことができた。

第1回連絡会実施時において、食に関する指導の全体計画は作成されているが、年間指導計画を作成していない学校が約半数あった。連絡会実施後、年間指導計画作成、充実に関しての進行計画を各自が作成し、栄養教諭が年間指導計画作成に関する役割を確認し、改善に繋げることができた。

また、経験の浅い栄養教諭は先輩の栄養教諭の具体的な取組を知ることにより、意欲や資質の向上に繋げることができた。

○本事業を推進することで、学校での食育が推進され、食育・食農教育等の体験学習の実践が増えてきた。

高知県産業振興食育推進事業 食育・食農教育等体験学習の実施

H21年度109回→H22年度140回

また、地場産物の活用率が高まってきており、地場産物を学校給食に取り入れた食育の実践も行われた。

地場産物活用状況 H20年度37.0%→平成21年9月から平成22年7月まで44.9%

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○学校長等管理職の栄養教諭の職務に対する理解を深めること

平成21年度栄養教諭の配置は31名であり、平成22年度は学校給食の栄養士の約半数が栄養教諭となってきた。栄養教諭の配置が進む中で、職務内容が多様化している。栄養教諭の職務が効果的に行われ、食育を進めるために、校長会等での働きかけや管理職等の食育の研修を計画的に行うことが重要である。

○学校全体で食育を推進するための全体計画及び年間指導計画の作成を進めること

食に関する指導の全体計画の作成率は、小学校72.9%、中学校56.5%であり、年々作成率は増加しているが、平成23年度の目標値100%には届いていない。また、年間指導計画の作成率は、小学校59.1%、中学校37.4%となっており、全体計画作成率よりもさらに低い値となっている。校内で食育を推進するための組織の設置は、小学校32.4%、中学校19.1%である。これらのことから、学校全体で食育を推進する体制整備が課題となっている。

県教育委員会は市町村教育委員会と連携し、全体計画の作成が遅れているところへの啓発を具体的に行っていくことが重要である。学校給食を実施していない地域や学校への作成例の提示や栄養教諭、学校栄養職員が配置されていない地域や学校への働きかけも積極的に行っていく。また、進捗状況を確認し作成率100%を目指す。

○栄養教諭・学校栄養職員の対象の研修の充実

教育活動としての食育が進められる中、栄養教諭や学校栄養職員への期待も高まってきている。こういった状況の中、さらに専門的な知識や指導内容や指導技術が求められている。また、新卒新規採用者の任用がある中、給食管理の研修も重要となってきている。栄養教諭・学校栄養職員の資質向上のために、各教科と食育の関連についての研修や給食管理の研修を継続して行っていく必要がある。今後、教育センター研修や栄養士会が行っている自主研修、全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会において効果的な研修を行い、資質向上に繋げていく。

再委託先名

高知県香南市

1. 事業推進の体制

- 香南市小中学校食育推進検討委員会（平成 19 年度設置、委員数 20 名）
小中学校の食育推進の検討組織（委員 17 名・アドバイザー委員 3 名で組織）
 - ・委員→栄養教諭、保幼小中代表者、養護教諭代表者、PTA、首長部局担当者・食生活改善推進員
 - ・アドバイザー委員→JA土佐香美、中央東福祉保健所、高知農政事務所
- 香南市小中学校食育推進運営委員会（平成 19 年度設置）
栄養教諭・栄養士を中心とした事業検討組織（栄養教諭・こども課栄養士・健康対策課栄養士で組織）
- 香南市教育研究会学校給食部会（平成 18 年度設置）
栄養教諭・養護教諭を中心とした研究組織（香南市内全栄養教諭・養護教諭で組織）

2. 具体的取組等について

テーマ1 学校の教育活動における食に関する指導の充実のための取組

- (1) 「食に関する指導の全体計画」や「給食時間における食に関する指導年間計画」の見直しと充実
※栄養教諭を中心として香南市の基本版を作成。校長会にて周知。各校で作成し管理運営計画書へ掲載。
- (2) 栄養教諭による指導用補助教材の作成と各校への配布
※専門委員会（香南市教育研究会学校給食部会）で作成。
 - 平成 22 年 5 月 26 日 食に関する指導用補助教材の協議及び作成
 - 平成 22 年 8 月 5 日 食に関する指導用補助教材の提案と協議及び作成
- (3) 栄養教諭の指導力向上をめざした研修会への派遣
※食育事業全国連絡協議会へ栄養教諭を派遣し研修内容を報告会研修会にて関係者に伝達。
- (4) 栄養教諭を中心とした食に関する指導の研究実践
※在籍校での研究実践と専門委員会（香南市教育研究会学校給食部会）での計画的な研修実施。
 - 平成 22 年 5 月 26 日 専門委員会研修会の講師・内容について協議
 - 平成 22 年 10 月 27 日 模擬授業・講師を招いての研修会を実施
 - 平成 22 年 11 月 24 日 来年度に向けた食に関する指導についての検討



- (5) 食育学習プログラムや実践事例の紹介
※調理体験教室事例や実践事例を報告書で紹介。
- (6) アンケート調査に基づいた現状分析と取組の改善協議
※小5朝食づくり教室、中1お弁当づくり教室の実施効果についてのアンケートと分析
【質問項目】（例：小5朝食づくり教室）
 - 実施印象 「今日の朝食づくり料理教室は楽しかったですか。」
 - 食への関心 「朝ごはんの大切さがわかりましたか。」
「これからは、なるべくバランスのとれた朝食になるように工夫して食べたいと思いますか。」
 - 調理意欲 「今日作った料理の中で、家でも作ってみたいと思った料理はどれですか。」
「あなたは、これから自分でも朝食を作ってみようと思いますか。」
 - 自由記述 今日の学習の感想を書いてください。

テーマ2

就学前からの食習慣改善に向けた家庭への効果的な普及啓発のための取組

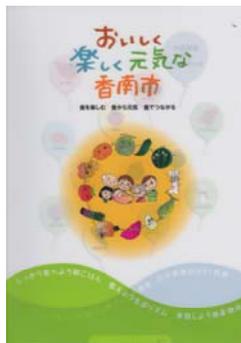
(1) 啓発用リーフレットの作成と配布（保育所・幼稚園・小中学校全家庭配布）

- 内 容 ・乳幼児期、学童期、思春期に分け、食に関する重要項目8項目を図示
- ・夏季休業中に募集した児童生徒の食育啓発標語や活動写真を掲載
- ・食育キャラクター全12キャラクターを活用



(2) 啓発用クリアファイルの作成と配布（全児童生徒及び来年度入学予定児童に配布）

- 内 容 ・香南市食育推進計画スローガンや重点目標の掲載
- ・食育キャラクターとキャラクター名（夏季休業中に公募）の掲載



(クリアファイル表)



(クリアファイル裏)

(3) 給食だより等の広報紙を活用した「食育の日」の普及啓発

※給食だよりや啓発用クリアファイルへの掲載等で普及啓発。

(4) 香南市の食育キャラクターを活用した広報活動

※児童生徒にキャラクター名を公募し決定。広報やクリアファイル掲載で周知。

※啓発用リーフレット・クリアファイルや給食だより等に掲載するなど積極的な活用促進。



いもーん



オクラひめ



じゃこたん



しいらん



しょうがっち



すいかどん



にらのすけ



とまこ



みかりん



メロン



ららっきょ



かい太郎

(5) 入学説明会での講話等による保護者への意識啓発

※栄養教諭もしくは学校長から食に関する講話実施。

学校名	講話者	開催日	学校名	講話者	開催日
夜須小学校	学校長	1月21日	吉川小学校	栄養教諭	1月25日
岸本小学校	学校長	2月4日	野市東小学校	栄養教諭	1月28日
香我美小学校	学校長	2月4日	野市小学校	栄養教諭	2月8日
赤岡小学校	栄養教諭	1月21日	佐古小学校	栄養教諭	2月10日

(6) 研修会の実施による関係者や保護者への意識啓発

※香南市小中学校PTA連絡協議会と共催し研修会を実施。

〈日 時〉平成23年1月22日(土) 〈場 所〉のいちふれあいセンターサンホール

〈内 容〉 パネルフォーラム

(テ ー マ) 「食を通して育む力とは」

(コ ー デ イ ー タ ー) 高知大学総合科学系黒潮圏科学部門

久保田 賢 准教授

(パネラー) 広島県三原市立小坂小学校

東 佐都子 校長

RKC調理師学校

三谷 英子 校長

香南市小中学校PTA連絡協議会

中脇 正人 前会長



※食育事業推進関係者等を集め報告会研修会を実施。

〈日 時〉平成23年2月12日(土) 〈場 所〉のいちふれあいセンター 研修室

〈内 容〉 事業報告 香南市教育委員会担当者、栄養教諭

取組紹介 J A土佐香美女性部、香南市食生活改善推進協議会

講 演 (演題) 「時間栄養学から健康を科学する」

(講師) 県立広島大学人間文化学部健康科学科

加藤 秀夫 教授



(7) アンケート調査に基づいた生活実態の把握と分析

※香南市食育推進計画に示された食育推進の指標に基づいた比較と分析

(8) 個別的な相談活動や栄養指導への取組と体制づくり

※栄養教諭在籍校において成績相談日に実施。

○野市小学校 平成22年 7月16日(金) 〈保護者5名〉

平成22年12月22日(水) 〈保護者16名〉

○赤岡小学校 平成22年12月21日(火)・22日(水) 〈保護者13名〉

(8) 次年度入学予定児童や保護者を対象とした給食試食会の実施

※栄養教諭在籍校を中心に実施。

○夜須小学校 平成22年10月19日(火)

○野市小学校 平成22年 6月24日(木)

○野市東小学校 平成22年 6月22日(火)

○赤岡小学校 平成23年 1月23日(日)

○吉川小学校 平成23年 1月25日(火)

テーマ3

地域と連携した食文化や地場産物への理解や食に関する意識の向上のための取組

- (1) 小学校5年生を対象とした朝食づくり教室
※香南市食生活改善推進員の協力により食材提供及び当日調理指導を受け実施。
- (2) 中学校1年生を対象とした地場産物を活用した弁当づくり教室
※J A土佐香美の女性部の協力により食材提供及び当日調理指導を受け実施。

小学校名	児童数	開催日	中学校名	生徒数	開催日
夜須小学校	33名	2月1日	夜須中学校	34名	10月1日
岸本小学校	9名	2月1日	香我美中学校	52名	10月1・5日
香我美小学校	46名	1月25・28日	赤岡中学校	25名	9月22日/2月7日
赤岡小学校	23名	11月10日	野市中学校	184名	6月1・2日 3・4日
吉川小学校	8名	2月8日			
野市東小学校	49名	6月23日/11月24日			
野市小学校	105名	11月1・4・5日			
佐古小学校	51名	11月11・12日			



- (3) 「食育の日」における地場産物を活用した統一献立給食の実施
○9月献立例 いもご飯、牛乳、しいらのオオバ揚げ、五目豆、こまつなのごまあえ、みかん



- (4) 地場産物の収穫体験や調理体験教室の実施
※高知県の行う産業振興食育推進事業や高知の特産物ジュニア博士育成事業なども活用しながら実施。

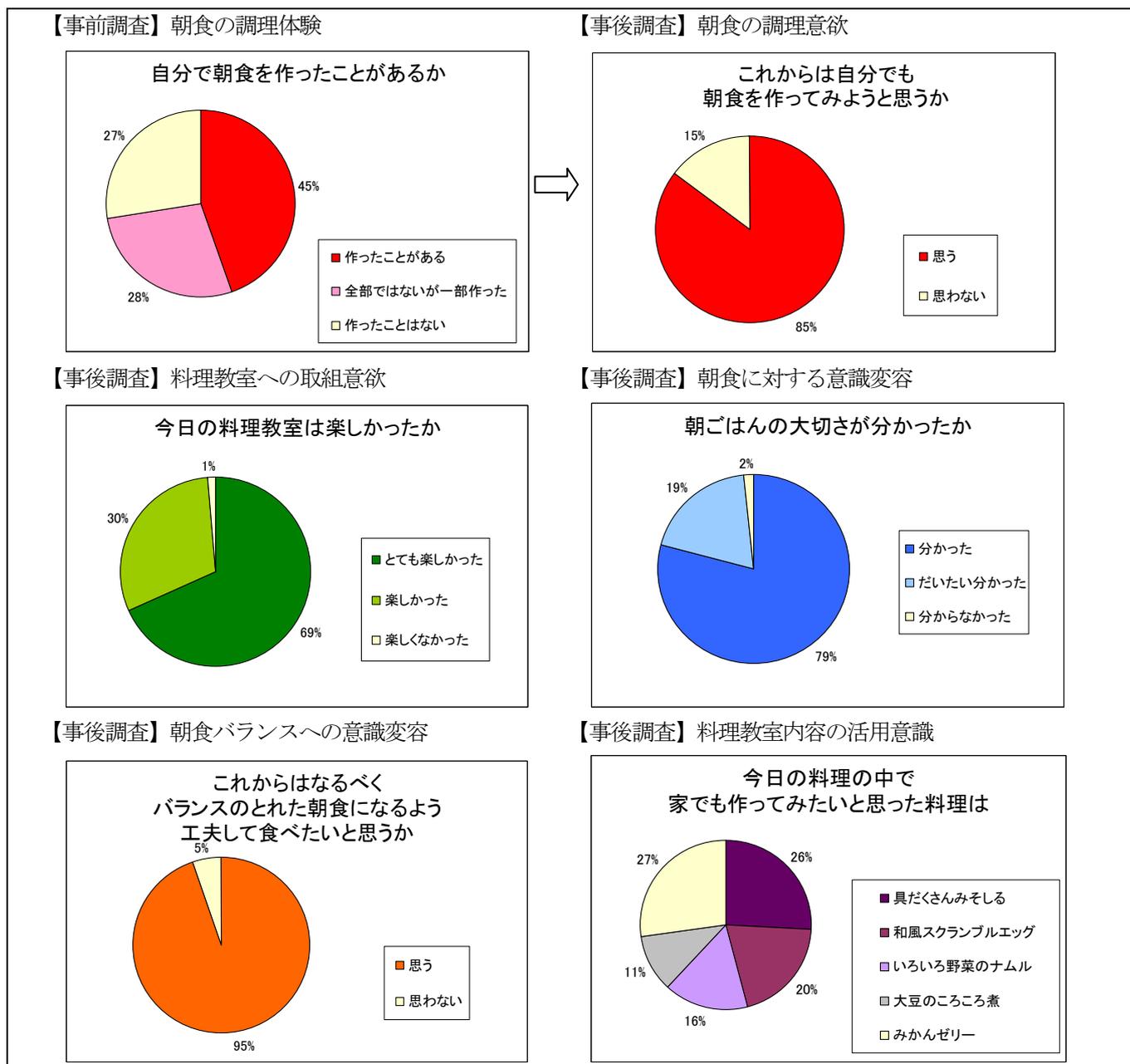


テーマ1～3に共通する具体的計画

【香南市食育推進計画】

- 平成22年度より平成26年度までの5カ年計画
- スローガン 「おいしく 楽しく 元気な香南市」
～ 食を楽しむ 食から元気 食でつながる ～
- 重点目標
 1. しっかり食べよう朝ごはん
 2. 整えよう生活リズム
 3. 実践しよう地産地消
- 乳幼児期目標 (0歳～5歳) 「食生活と生活習慣の基礎をつくり、食を楽しむ心を育てる」
- 学童期目標 (小学生) 「食の体験を通して、食への関心を広げ、楽しく食べる力を育む」
- 思春期目標 (中高生) 「食に関する知識や食体験を深め、望ましい食生活を実践する力をつける」

数字で変化のあった事項について



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 平成21年度に策定された5か年計画の香南市食育推進計画に添った事業展開を香南市小中学校食育推進検討委員会で確認し合って行ったことにより、学童期や思春期の行動指針として示されている内容等を各担当者が意識して取り組むことができ、計画の共通認識や浸透に事業を役立てることができた。
また、啓発用リーフレットやクリアファイルの作成、或いは研修会や調理教室等の実施においても、食育キャラクターの活用や行動指針に沿った啓発8項目の記載など、常に計画を事業のなかにかにかに取り込むかを意識して啓発事業を実施したことにより、住民にも香南市食育推進計画が浸透しつつある印象を受ける。
- 栄養教諭が給食受配校を兼務し、各校の食育推進への指導助言にあたり、朝食づくりや弁当づくりの事務調整を行ったりする中で、関係機関や各校管理職との信頼関係が築かれ、香南市内校全校の推進が図られる体制が整い、各校の取組にも特色が生まれつつある。また、補助教材や啓発資料の作成、調理教室の実施等の取組が成果として見え、周囲からの評価を受けることにより、栄養教諭のやる気と責任感につながり、より積極的な関わりが生まれるなど、PDCAを繰り返しながら、栄養教諭の資質向上も図られている。

○ 朝食づくり教室とお弁当づくり教室は平成20年度より継続実施しているが、給食受配校と関係機関の日程調整は各栄養教諭が中心となっており、最終調整を教育委員会が行うという形が定着し、スムーズな運営が図られるようになってきている。香南市食生活改善推進員やJA土佐香美女性部から複数の方が指導に入ることにより、調理技能の向上や地域連携面で大きな効果を生んでおり、教室を楽しみにする児童生徒や地域の方の声が聞かれるようになってきている。

また、関係機関からの調理材料の提供があることから、児童生徒の負担が少なく、円滑に事業を実施できていることから、各校で進める食育推進にも非常に役立っている。この2教室については大きな効果も上がっていることから、今後も継続することや関係機関の協力も継続していただけることが確認されている。

さらに、香南市内の全小中学校で実施することから、事業実施の際には各児童生徒へのアンケート調査を行い、児童生徒の家庭での食生活状況等について分析することにより、年度ごとの傾向や推移を確認する機会としても活用できている。

下記が小学校5年生で実施した朝食づくり教室の際の調査資料集計の一部である。

事前調査に比べ事後調査においては、明らかに朝食の摂取に対する意識の向上や栄養バランスへの認識が向上していることがわかる。これは、栄養教諭がまず摂取すべき栄養素や栄養素の含有食材について補助教材を使用しながら指導を行い、朝食の摂取の有無による体温変化をサーモグラフィによる資料を活用して説明を行う等、栄養バランスのとれた朝食の摂取が1日の生活にいかにより必要であるかについて具体物を活用して認識化を図っている成果といえる。

○ 香南市小中学校食育推進検討委員会の開催や各事業において関係機関との連携が強まっており、香南市食生活改善推進協議会やJA土佐香美等が行う事業においても効果的な連携が図られたり、本事業と系統性を持った事業実施が協議されたりするなど、学童期・思春期の食育推進が全市的な取組に高められつつある。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

本事業のねらいのひとつとして、家庭における食育の意識向上を掲げ、特に、課題改善が困難な家庭に対して、児童生徒や保護者の食に関する意識向上をいかに図るかを大きなテーマとして取組を進めてきた。

家庭における食育の意識向上については、大きく2点に分け推進をしていくことを確認している。

①成長し保護者となっていく現在の児童生徒に対して、食の大切さをしっかりと認識させるとともに、自分で朝食やお弁当をつくることできるように調理技能の向上を図る。

②保護者への啓発については、研修会やリーフレット等による全体的な啓発とともに、課題が見られる家庭には個別の栄養相談や栄養指導を行い、児童生徒の家庭での食環境を整える。

①への対応として、学校における指導計画や授業実践、小5朝食づくり、中1お弁当づくり等の取組を行ってきた。

②への対応として、香南市P連との共催による研修会や啓発用リーフレット・クリアファイルの配付とともに、栄養教諭配置校での成績相談日を活用した個別栄養相談等の取組を行ってきた。

学校における①を目的とした取組は関係機関が共通認識を持って取り組み、検証も容易であることから、PDCAサイクルで発展させた取組につなげていくことができていく。

対象が広範囲に及ぶ②については検証が容易ではない面があり、今回の取組の成果がどれだけあったのかは、食育推進計画の中で行う全体検証等を活用して考察していく必要があると考えている。特に、食生活に課題のある家庭については、個別相談等で対応できた家庭もあるが、相談を投げかけても応じない家庭も依然としてあり、成果として上がってはきているが十分とはいえない。課題意識の低い保護者に対する啓発をどうしていくかは継続した課題として残っていると見える。

香南市教育委員会は食育だけではなく、子どもの成長を0歳から15歳までの育ちの中でしっかりと支援していくことを目標として掲げ、保幼小中連携カリキュラムを策定して15年間を見通した教育活動を展開していこうとしているが、家庭の教育力向上に向けて、保護者の教育に対する意識向上をいかに図っていくかが今後の課題であり、その基盤となる食習慣や生活リズムの改善は本事業を実施した後にも残る継続的な課題であり、来年度以降の香南市としての課題といえる。